

登録団体概要書

(2025年8月作成)

(ふりがな) 団 体 名		(トクテイヒエイリカツドウハウジンハコスイグン) 特定非営利活動法人ハコスイグン	
代表者職・氏名		理事長 山田宗明	
主たる事務所の 所 在 地		〒769-1106 香川県三豊市詫間町箱467-2	
連 絡 先 等		電 話	050-3703-8547
		F A X	
		e-mail	hakosuigun@gmail.com
		ホームページ	https://hakosuigun.studio.site/ https://note.com/idobata_npo
法人設立年月		2025年2月	正会員数 10人
活 動 目 的 (定款に記載された目的)		荘内半島先端の箱地域を拠点に、海でつながりにぎわう荘内七浦を再興し、将来にわたってこの地が地域内外の人にとって魅力ある土地となるよう、地域の魅力の発見・発信と新たな産業の振興を行うこと	
主たる活動分野		香川県三豊市荘内半島地域における地域振興	
活 動 状 況	主 な 活 動	(1) 荘内七浦まちおこし事業 (2) 海洋教育事業 (3) 環境保全事業 (4) 特産品の開発・販売事業 (5) 飲食事業 (6) 海上運送事業及び港湾運送事業 (7) 旅行業法に基づく旅行サービス手配業	
	活 動 地 域	香川県三豊市荘内半島地域	
	活 動 頻 度	月に1回程度	
	過 去 の 事 業 実 績	2021年 7月 「箱・荘内半島活性化委員会」名義でフェイスブック上で活動の発信を開始 2021年 11月 特定非営利活動法人イドバタの香川県三豊市における活動としてブログ上で活動の発信を開始(https://note.com/idobata_npo) 2021年 12月 箱地域の移住者・二拠点生活者が中心となり、箱・荘内半島の魅力の発信と産業の発展を企図した「箱・荘内半島サイコー!!計画」を制作し、箱地域住民と共有 2022年 10月 旧箱浦小学校校舎を利用した「竜宮のハコブネ」イベントを実施 2023年 6月 Design the Earth と協業し、姫路浜(栗島)、関の浦(荘内半島生里)等で海ごみ回収イベントを実施	

		2024 年 8 月 中古漁船を改修し「天ぷら丸」として海洋教育プログラムに利用開始 詫間漁協と協業した漁業体験プログラムを実施 2025 年 8 月 2 日 こども図書館船事業内にて船づくりワークショップの実施
今後の活動方針		(防災活動) 2025 年 9 月以降、避難所指定されている旧箱浦小学校における環境整備 (海岸清掃活動) 2025 年 10 月、2026 年 2 月 4 月に風向きと潮の関係による漂着ゴミの関係を調査することを目的に海岸清掃活動を実施予定
県民への P R		三豊市の荘内半島、粟島、志々島は荘内七浦と呼ばれ、かつては数多の船が行き交う海上交通の拠点でありました。 海でつながり、にぎわう荘内七浦を再興し、将来にわたってこの地が地域内外の人にとって魅力ある土地となるよう、地域の魅力の発見・発信と新たな産業の振興を行います。

(注1) 団体登録された場合、この概要書は、寄附を検討する県民への資料として、公開されます。

(注2) 枠内に記入できない場合は、枠を広げて記入ください。A4版であれば、複数枚になっても結構です。

活動状況報告書

(2025年8月作成)

団体名 特定非営利活動法人ハコスイグン

登録要件	登録要件に関する団体の活動状況等
広く県民を対象とするNPO活動を行っていること	香川県三豊市の荘内半島を拠点に、県内外の幅広い住民が参加できる開かれた活動を展開しています。漁船乗船体験や魚さばき体験では、漁師の協力を得ながら実際の現場を公開し、子どもから高齢者までが海と食文化に触れる機会を提供しています。牡蠣養殖体験や赤潮観察では、普段は見ることのできない漁業や環境の現場を県民に開放し、自然と人との関係についての理解を深めています。また、廃校を活用した船づくりワークショップや音楽イベント、地域食材を使った交流型の催しなどを開催し、世代や地域の枠を超えた学びと交流の場を創出しています。さらに、未来の海を考える子ども向けワークショップでは、次世代が主体的に地域や環境と関わる契機を提供しています。このように、当法人の活動は対象を限定せず、県民一人ひとりに広く開かれた学びと参加の場を継続的に提供しています。
より公益性の高いNPO活動を行っていること	当法人の事業は、教育、環境、地域振興の三分野を横断し、公益性の高い成果を生み出しています。海藻講座や磯場観察では、専門家を招いて県民とともに海藻の生態や活用を学び、子どもたちが描いた絵を基に「磯場観察ハンドブック」を制作して公開するなど、誰もが自然を学べる教材を提供しました。赤潮観察では、海の現場を直接見学することで環境課題への関心を高め、持続可能な地域づくりに貢献しています。魚さばき体験や船づくりワークショップは、地域文化や食文化の継承につながり、漁業や生活文化の価値を次世代に伝える公益的な役割を果たしています。さらに、未来の海ワークショップでは、子どもたち自身が「こうあってほしい海」を議論し発表する場を設け、次世代育成を重視した取り組みを行いました。これらの事業は、単なる地域振興にとどまらず、県民全体に広がる公益的価値を創出している点に特徴があります。
活発なNPO活動を継続的にを行い、当該活動に発展性及び模範性があること	当法人は、単発の催しではなく、年間を通じて教育・環境・交流の各分野にわたる多様な活動を継続的に展開しています。漁船乗船体験や牡蠣養殖体験、魚さばき体験は、実地型の学びを積み重ね、参加者が地域と継続的に関わる循環を生み出しています。船づくりワークショップでは、座学と体験を組み合わせ、子どもから大人までが海の技術や文化を学ぶ機会を確立しました。海藻講座や赤潮観察といった環境教育は、継続的に開催することで県民の環境意識の定着を図っています。また、廃校活用イベントや未来の海ワークショップは、地域資源の利活用と次世代育成を組み合わせる独自性を持ち、地域社会全体に発展的な影響を与えています。こうした取り組みは、地域に根差しながらも他地域でも応用可能なモデル性を備えており、香川県における模範的なNPO

活動の事例として位置付けられるものです。

(注1)この報告書は、団体の活動内容が登録要件を満たしているかを審査するための資料として用い、また、団体登録された場合、寄附を検討する県民への資料として、公開されます。

(注2)枠内に記入できない場合は、枠を広げて記入ください。A4版であれば、複数枚になっても結構です。

(注3)活動の状況等が分かる資料等があれば添付ください。